

1 審議会名	第2回上田市廃棄物処理審議会
2 日時	令和5年1月31日(火) 午後1時30分から午後3時40分まで
3 会場	清浄園 2階大会議室
4 出席者	町田会長、栗田副会長、新井委員、井田委員、太田委員、工藤委員、小山委員、中村委員、西澤委員、西島委員、満尾委員、山浦委員、若林委員 計13名
5 行政側出席者	
【生活環境部】	北島部長、山口ごみ減量化推進参事
【廃棄物対策課】	西澤課長、吉澤廃棄物指導係長、大井戸リサイクル推進係長、岡部リサイクル推進係主事
【ごみ減量企画室】	佐藤室長、小平ごみ減量企画係長、尾崎ごみ減量企画係主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 3人
8 会議概要作成年月日	令和5年2月2日

協 議 事 項 等

1 開 会 (佐藤ごみ減量企画室長)
2 部長あいさつ (北島生活環境部長)
3 委員自己紹介
4 事務局紹介
5 会長・副会長の選出
・町田委員から会長の自薦、委員全員が「異議なし」
・副会長の選任について委員より「事務局案で」の声
・事務局案を提示、委員全員が「異議なし」
・事務局案のとおり、栗田副会長を選任
6 諮 問
・上田市ごみ処理基本計画の中間見直し等について
7 会長あいさつ (町田会長)
8 議事
(1) 上田市ごみ処理基本計画【見直し(案)】について
(2) 上田市ごみ減量アクションプラン【改訂(案)】について
・資料に沿い、小平ごみ減量企画係長より一括で説明
・以下、質疑応答
(委 員) 事業系生ごみの減量がポイントであると理解できた。ごみの中には書類などの紙類が多いと思うが、特にシュレッダーにかけた紙類は資源物として処理することはできないか。
(事 務 局) 今回の計画見直しに当たり、事業系ごみが減っていないことがわかった。シュレッダーにかけた紙類は、クリーンセンターに持ち込まれたものは焼却しているが、原則、紙類は持ち込まないよう、事業者に協力依頼している。
(委 員) 通常、事業規模が縮小していけばごみ量も減っていくものと思うが、ごみ量が増えているのは新型コロナウイルスが影響していると考えられるのか。
(事 務 局) 計画策定時には想定されなかった新型コロナウイルスにより、外出の自粛や事業活動が制限されたことなどから、当初計画とは異なる推移となったと考えられる。

- (委員) シュレッダーにかけた紙類も資源物として処理できれば、可燃ごみ量は減ると思う。
- (委員) 事業所から排出される紙類はほとんどがリサイクル処理されており、シュレッダーにかけた紙類も、汚れていなければリサイクルしている。
事業系可燃ごみ量が増加した要因の一つとして、家屋解体等で発生するごみの処分について、これまで産業廃棄物としていたものを、一般廃棄物として適正な処分が進んできたことが挙げられる。ほかにも、東日本台風災害の影響や、新型コロナウイルスにより社内の整理が進んだことなど、様々な要因が重なっていると思われる。
- (委員) ごみ減量アクションプランには、生ごみの水切り等のごみ減量に向けた具体的な行動についての記載があるが、これらの内容はどのように周知していくのか。特に学生に対する周知はどのように考えているか。
- (事務局) 多くの方々に情報発信する方法というのは非常に難しい課題である。直近では、生ごみの堆肥化処理やエコクッキングに関するパンフレットを作成し市民の皆様に周知した。近年、情報機器の発達が非常に進んでおり、電子媒体を活用することで有効かつ即時的な情報発信が可能かもしれないが、そうした機器の操作が難しい方々も多くいる。より多くの方々に情報をお届けできるよう、様々な媒体を通じて周知を図りたい。また、ごみ分別アプリ等もあるので、学生の皆様にも知っていただけるよう学校を通じて情報提供してまいりたい。
- (委員) 以前は、長野大学や信州大学の新生入生に対してごみの分別等に関する学習会を開催していたが、最近の実施状況はどうか。開催していないのであれば、学校へ働きかけて実施してほしい。
- (事務局) 約3年前までは長野大学等でごみの現状や分別に関する学習会を開催していたが、新型コロナウイルスの影響もあり、現在は行っていない状況である。令和5年度からは、大学と相談のうえ、直接お話をさせていただく場を設けたいと考えている。
- (委員) 計画の改定版は、各戸配布などにより市民周知をするのか。
- (事務局) 周知については、改訂版の各戸配布ではなく、ホームページ等による周知を考えている。
- (委員) 各家庭に周知することはできないということか。何人の市民がホームページを閲覧しているのか分からない。このごみに関する内容は喫緊の課題ではないのか。
- (事務局) 各家庭への配布は、自治会の負担も大きくなるのが考えられるため、ホームページのほか、広報等でも計画の内容についてお知らせしていきたい。
- (委員) ダイジェスト版のようなものを広報に掲載するというのでよいか。
- (事務局) 広報の中で、計画の概要などを掲載し周知を図ってまいりたい。その他、回覧等の方法もあるかと思うので検討させていただきたい。
- (委員) 自治会の負担についてはあまり考えなくても良いと思う。回覧板は何人の方が見ていると考えているのか。高齢者世帯には回覧板を回さなくても良いとしている自治会もあれば、自分たちで負担して回覧文書を印刷し各戸配布している自治会もある。今回の計画は非常に重要なものであり、ダイジェスト版だけでも配布する必要があると思う。
また、色覚異常のある方もいるので、資料の色使いについて考えていただきたい。目標値など変更する部分については、太字にするなどして分かりやすい表現をお願いしたい。また、KPI についても分からない人も多いと思うので、トピックスなどで分かりやすく説明して欲しい。加えて、基本計画の16ページの円グラフにあるような、「厨芥類」という表現も、分かりやすいものにして欲しい。
- (委員) 初めて読む人には分かりにくい部分もあるため、一般の方にも理解しやすい内容にして欲しい。また、周知の方法についても工夫していただきたい。

- (委員) 市内には外国からの移住者も多く、日本語が分からない方も多い。そういった方々に対して、どのようにごみに関する情報を周知していくのか。現状でも、ごみ出しのルールが分からず夜中に出してしまうなどのケースが見られ、自治会の中でも困っていると聞いた。
- (事務局) ごみの出し方や分別帳などについては、複数の言語のパンフレットを御用意している。外国人の方々を雇用している企業等に働きかけをし、勉強会やパンフレットの配布などを行うほか、ホームページ等でも情報提供している。
- (委員) 外国人の方々は、自治会などの組織に入っていないことが多い。
- (事務局) ごみの出し方などのパンフレットは8か国語を用意しており、転入の手続きの際に窓口からお渡ししている。また、以前は外国語学校の生徒や外国人労働者が多い企業にお伺いしてお話したこともあり、今後もそうした機会を設けたいと考えている。
- (委員) 以前、ごみ減量アドバイザーの活動として、自治会内の外国人や外国語学校の学生を対象にごみ出しの講座を実施したことがある。
- (委員) 以前外国語学校の支援等に携わったことがあり、外国人の方々からお話を伺ったことがある。ごみのパンフレットの8か国語以外の外国人も多く、そういった方々はそれぞれにコミュニティがあるので、その代表と相談して周知していくなどの方法も考えられる。そういった方々は、優しい日本語のパンフレットや字幕付きYouTubeなどで説明してもらえればコミュニティ内で周知できるとのことだった。
- (委員) 各家庭にごみの分別帳があると思うが、これを使用する際に載っていない品目が多い。手元にあるものは数年前に作成されたものであるが、現在は様々な種類のごみが新たに出てきているので、改めて内容の見直しを図っていただきたい。
- (事務局) 分別帳については、項目の追加や内容の変更はその都度行っている。改めて内容を確認し、時代に合ったものに改訂し発行していくことも検討したい。
- (委員) 1月にごみ収集車の車両火災があった。こうした事故が発生しないように適正な分別に努める必要がある。
- (事務局) 本年1月4日にパッカー車の車両火災があった。これまでも何度か同様の火災事故が発生しており、本来燃やせないごみには入れてはいけないスプレー缶やライター、モバイルバッテリー、電池等の違反物が原因であると考えられる。こういった品目はパッカー車に巻き込む際に発火する可能性があり、今回の事故でもかなり大量のライターが中から発見されている。半年に1回程度は同じような事故が発生しており、その都度、周辺自治会に対する回覧や、様々な媒体を通して適正分別について周知啓発を図っている。違反物をゼロにするというのは難しいことではあるが、しつこいくらいに周知していく事が重要であると考えている。
- (委員) 若い世代は当たり前のようにホームページを見れると思うが、年配の方々はなかなか難しいと思う。ホームページに情報を掲載するとの説明があったが、実際にどれくらいの人がホームページを見ているのか把握しておく必要があると思う。
- (事務局) ホームページの他にも「さんあ〜る」というアプリでも情報発信ができる。その他ラインなどの活用も始まっているので、様々な媒体を通じての情報発信を検討したい。
- (委員) 市内小学校への働きかけはどういう状況か。
- (事務局) 小学校4年生が社会科見学の一環としてクリーンセンターの見学に来ていただいている。最近では新型コロナウイルスの影響により実施できない状況が続いたが、学校からの御要

- 望があれば対応させていただきたいと考えている。
- また、小学校へ職員が出向いて、直接お話をしたり、DVD を見てもらうなどして、ごみへの関心を持ってもらえるように出前講座の開催などもしている。
- (委 員) 例えば給食からの食品ロスを削減する取組みなどについても関心を持ってもらい、子どもから家庭に知識を持ち帰ってもらうなどの取組みも必要だと思う。
- (委 員) 古着回収する店舗も市内にいくつかあるが、そういった店舗は若者向けが多く、高齢の方などにはそういった取組みがあることはあまり知られていないと思う。市と店舗が連携し情報発信することにより、自宅近くの店舗で古着回収ができることが分かれば、ごみの削減にもつながっていくのではないかと思う。
- (事 務 局) 家庭から排出される可燃ごみの中でも、古着は比較的多くの割合を占めているものと考えられる。現在、月 1 回上田クリーンセンターで古着回収を行っている。今回、アクションプランの中でも、古着回収の内容に関する記載があるので、改めて事業者との連携により古着のリサイクルを推進していくことについて追加したい。
- (委 員) 不燃ごみが週 1 回から月 2 回に変更になったことにより、ある程度は削減されたと思うが、それでも資源物の混入は多くみられる。可燃ごみについても、今後生ごみの分別収集が始まるのであれば、最終的には週 1 回程度の収集にしても良いのではないかと思う。収集回数を減らす事で、生ごみ分別収集への協力を考えるようになると思うし、処理業者も他の業務に時間を割くことができると思う。
- また、個人的には不燃ごみをパッカー車で回収するのは変更した方が良いのではないかと思っている。ダンプ等で収集する方がより安全に回収できると思うが、より良い方法を検討していただきたい。
- (事 務 局) 今回の計画の中で一番大きなポイントとしては、目標値を変更したことである。計画を策定した当時は、より多くの可燃ごみを削減していくものとして、目標値を設定していた。しかし、近年の新型コロナウイルスの状況や人口動態の変化をみると、当初目標値の達成が困難であることが分かったため、今回のような目標値に変更した。特に、事業系可燃ごみの目標値については、上田地域広域連合が策定した「ごみ処理広域化計画」で定めた目標値に合わせる形とする必要があったため、かなり厳しい目標値となった。家庭系可燃ごみも推計値からの削減を目指すものとして、記載のとおりの設定とした。今後、可燃ごみ量は統合クリーンセンターの規模などにも関係することから、しっかりと減量に努めていかなければならないと考えているので、御意見等があればいただきたいと思う。
- (委 員) ホームページ等で情報を提供していくという話があったが、事業系可燃ごみ量の目標値達成に向け、事業者の皆さんの協力が非常に重要になってくると思う。具体的にどのような形で呼びかけていくように考えているのか。
- (事 務 局) これまで事業者から排出される生ごみについては手つかずの状態であった。今回のアクションプランの中でも記載はあるが、一例としては、スーパー等については生ごみも焼却処理しているところを堆肥化などの再資源化にシフトするようなことを考えている。市の方からも定期的にスーパーに伺って実態調査を行っているので、方針が固まったところで、具体的な方法についても提案しながら御協力いただけるように呼び掛けていく。
- (委 員) 大手スーパーなどは、堆肥化などへの対応も比較的容易かもしれないが、飲食店や小型の店舗に対し、水切の徹底などについて協力してもらうには難しい面があると思う。今後は収集業者と連携して取り組んでいくことも必要ではないかと思う。
- (委 員) 事業者といっても、病院や飲食店、学校などかなり幅が広く、ごみの内容もそれぞれ異なると思う。ごみの減量は共通の課題だが、各業種の特徴なども考慮しながら対応してい

ただきたい。例えば、生ごみの水切りを誘導するような袋にするなどの工夫により、少しずつ意識づけにつながっていくのではないかと。

(3) 市民意見募集（パブリックコメント）実施について

- ・資料に沿い、小平ごみ減量企画係長より説明

(事務局) パブリックコメントの前に、今回頂いた意見を反映させていただいたものを、改めて皆様に御確認いただくなども考えている。

(委員) 個人的には、特段委員に対して確認はせず、事務局の方で意見を反映させた計画をパブリックコメントの資料として掲載していただいても問題ないかと思う。

- ・反対意見等なし
- ・以下、質疑応答

(委員) このパブリックコメントを実施することについてはどういった形で周知するのか。

(事務局) ホームページの他、広報2月号で周知する。

(委員) 広報の発行は16日だが、実際に手元に届くのは遅くても1週間後になる。自治会に加入している方でもホームページを見ても限らないので、実際には募集期間は1か月もないと思う。答申の日程から逆算して、こういった日程になったということか。

(事務局) 審議会の開催の時期も遅れてしまったこともあり、結果的にパブリックコメントの期間もこういった日程になってしまった。市民の皆様にも御迷惑をおかけするが、御了承いただきたい。

(4) 今後の予定について

- ・資料に沿い、小平ごみ減量企画係長より説明

(事務局) 3月中旬の第3回審議会において、パブリックコメントの結果も含めて報告させていただき、最終的な御意見を伺ったうえで、まとめに入りたいと考えている。非常にタイトなスケジュールとなってしまう御迷惑をおかけするが、この審議会に限らず、御意見等がありましたら事務局まで御連絡いただければと思う。

(委員) 3月17日がパブリックコメントの期日となるが、それ以降だと次回の審議会は3月20日の週ということでしょうか。

(事務局) そのあたりになるかとは思いますが、具体的な日程については様々な調整が必要になってくるので、改めて御連絡させていただきたい。

(5) その他

- ・特になし

9. 閉会（山口ごみ減量化推進参事）